



社会福祉法人

熊本いのちの電話

KUMAMOTO INOCHINODENWA

通信 60号 平成30年4月



## 救命救急の現場で 心を支える

国立病院機構熊本医療センター

救命救急・集中治療部／精神科 橋本 聡

平成28年熊本地震からやがて2年を迎えようとしていますが、読者の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。はさみ状格差といわれる、順調に生活再建が進む方たちと、再建から取り残される方たちとの差がはつきりしてくる時期でもあります。一見、順調に生活再建を進めているようで、震災の影響を時間が経ったからこそ実感する方もおられるかもしれません。そのような時期だからこそ、「人生は自分のためにある」ことを意識しながら、“自分にとって一番大事にしたいことは何か”を考え、そこにだけ集中して過ごしていただけるならと考えています。

私たちが勤務する施設は、救命救急センターを有し、救急患者の受け入れを常時活発に行っています。精神科病棟も有しますので、身体的にもメンタル的にも不調な方の救急搬送を多数受け入れています。その中には意図的に自分自身を傷つけるとか、死んで楽になりたいと自殺企図を行った方も含まれ、平成29年中、延べ419例の救急受診があり、内12例は救急外来での死亡確認となっています。救急外来の医師・看護師とも連携を取りながら、当事者の方の抱


える死にたい気持ち、その気持ちが発生した経過や原因などの確認を行いつつ、早期からの精神科介入に務めています。

自傷や自殺企図の背景は当事者の方によって本当に様々で、医療の問題にとどまらないことも多く、精神保健福祉士ほかのソーシャルワーカーとともに問題解決にあたり、保健師の家庭訪問、各種社会福祉サービス、場合によっては弁護士によるベッドサイド法律相談などにつなげています。また、自傷や自殺企図は、「身勝手である」とか、「甘えているだけ」と周囲から誤解して受け止められることもあるようですが、当事者の方自身は「どうしていいのかわからない」という状態にあることがほとんどですので、“ことばにならないサイン”として理解するように心がけています。他の取り組みとして、問題を整理して、当事者の方がまず取り組むべきことをはっきりさせるため、心理検査・知能検査を実施して、当事者の方・ご家族と検討することがあります。当事者の方によっては心理検査・知能検査から自分の特性が初めてわかり、そこから立て直しの端緒が見えて来ることもあります。

### 通信60号 目次

巻頭言 .....	P1	自殺予防公開講演会 .....	P4	感謝報告 .....	P7
一泊研修の感想 .....	P3	相談電話の分析 .....	P6	お知らせ .....	P8

相談電話 096・353・4343



当院は救急病院であるため入院期間は短いのですが、だからこそ病棟生活の様子を見守っている救命救急センターや精神科病棟の看護スタッフとの連携が重要です。希死念慮を打ち明けられたときの対応や、その背景をどのように理解するか等にはトレーニングも必要です。このため、傾聴と共感についての勉強会や事例検討会を開催して、基礎的スキルの改善を図っています。このようにして精神科医だけではなく、看護スタッフや臨床心理士、ソーシャルワーカーなど、それぞれの特性を生かしながら、介入にいたっています。救急外来や、救命救急センター入院中から介入を開始し、退院後半年程度まで見守りをつづける、“救急患者精神科継続支援活動”と呼ばれる活動も全国的に始まっており、当院では平成29年度から取り組んでいます。同意が得られた当事者の方に限ってですが、退院後半年程度まで、医療や社会資源の活用から生活改善が果たされているかをモニタリングしています。

毎年多数の方たちにお目にかかりますが、私たちが“特性”と呼ぶ、脳の各種情報処理能力のアンバランスを抱えた方がとても多い印象です。もちろん、私たちの現場に来られるような時期においてはメンタル不調を抱えた方がほとんどとなっています。能力のアンバランスさから生きづらさにつながり、周囲とのコミュニケーション不調に陥り、自分にも自信を持てなくなることから、こころの壁を築いている方も多く感じます。より若い時期にお目にかかっていたならと感じます。また、気持ちをことばにする力が弱い方もたいへん多い印象です。主語がはっきりせず、読解力が弱い方も含まれますが、起きた出来事、自分や周囲のとった行動をたくさん話す一方で、何を感じていたのか、その時どんな気持ちでいたのかの語りが乏しい方たちです。無責任に言いたいこと、やりたいことだけを口にするのは問題かと思うのですが、その理由は何で、どんな背景があるのかは生活立て直しの柱になって来ます。腹の底に抱えているものをことばにする力が弱い方の、家族を含む周りの方には、世間体や一般常識を盾に当事者の方の話を聞こうとしない方が多いような気がします。もちろん、当事者の方の物言いがひどい時もあるのですが、まずは「どうしたの？」と理由を聞いてあげる、気持ちを確認してみる、そういった文化が必要な気がします。

救急に従事していますととても残念な結果にも向き合わなければいけません。救急搬送されたにもかかわらず身体的に重症で、救急外来で死亡確認となるような場合です。自死に至ってしまった場合、亡く

なった方ご自身には何も出来なくなりますが、後に遺された方にとっては最初に出会う医療従事者と考え、救急外来滞在中の短い時間ですが、救急外来の看護スタッフ、臨床心理士らとともに家族ケアチームを結成して対応しています。救急隊から病院へ連絡が入った時点で、救急医から「自死遺族対応チーム」へ連絡をまわしてもらい、身体治療の開始と同時に家族ケアを開始するようにしています。あまり特別なことではありませんが、動転するご家族にプライベートスペースを確保したり、代わりに家族連絡を行ったりをしていて、ご帰宅の際には「大切なひとを亡くされた方へ」というパンフレットを手渡し、困りごとに応じて相談先があることを伝え、リスクが高いご家族と判断すればフォローアップの調整を行うようにしています。

家族ケアの活動を通じて、数は少ないのですがしばらく経ってからご家族よりお手紙を頂くこともあります。「担当された方のことは細かく覚えていないが気にかけてくれたことがありがたかった」という内容などです。お手紙を拝読して感じるのは、亡くした後の人生の過ごし方は千差万別であることと、一般的な急死とは異なり素直に悲しむだけでは終わらない悲嘆のありようです。

ここまでは私たちの活動のことを書いてまいりました。私たちより長く自殺予防問題に取り組んでこられた熊本いのちの電話の皆さまに、これ以上なにか期待するのは罰当たりな気がいたしますが、私の寄稿がなにかご参考になるなら幸いです。私たちも当事者の方が退院される際、いろいろなりソースのひとつとして「いのちの電話」の存在をお伝えしています。印象としては半分弱ほどの方がすでにご存知という感じで、認知度アップからさらに回線が混み合うことになるかも知れません。既にご存知の方も、なかなかつながらないことを残念に思っている方がいますので、北欧などでは傾聴しながら問題解決的に対応し、30分ほどまでの通話時間にするアプローチがあるそうなので、少しずつの変化があってもよいのかなと感じたりもします。いずれにせよ皆さまの健康が第一ですので、末永くご活動頂けますようお願いいたします。今後ともどうかよろしく願いいたします。



# 一泊研修の感想

第34期生が養成講座1年間の総仕上げとして、座学中心だった講義から今度は、電話相談で実際に起こる場面を想定した疑似体験（ロールプレイ）中心の一泊研修へ参加しました。受講生は、今年4月からの実習に向けて最後の研修です。実践に即した日頃の何気ない話、自殺念慮のある相談などを体験しました。また、先輩相談員との懇談、この時でなければ聞けない話など、有意義な一泊研修となりました。夜の懇親会では、昼間のへとへと吹き飛ばす余興もあり参加者全員の距離がぎゅっと近くなりました。これから実習生としての一年を経て、相談員の一員としていっしょに活動できることを期待しています。

何気ない会話の中にかけ手の背景にある事情を汲み取り、感情を受け止め、自身の言葉の発し方の癖を踏まえた上で対話する大事さを学びました。「死にたい」というかけ手に、受け手である私たちの「死んで欲しくない」気持ちを伝えること。かけ手の話を聴くだけでなく、希望を失ったかけ手に関心を持ち寄り添うことの大切さを改めて知りました。この経験を今後の実践にいかしていきたいと思ひます。

二日間の研修を終え充実感でいっぱいです。全てがうまくいったのではなく、自分自身の現状と課題がわかったからです。ロールプレイでは自殺志向が強いかけ手に、なぜ最後まで生きて欲しいとの気持ちを伝えきれなかったのか、など自分自身の生き方の課題が見えました。「いのちの電話が最後の砦」としてかけ続けるかけ手に、感情を受け止め共感できる相談員になつて行きたいと思ひます。

ロールプレイは大きな学びとなりました。ロールプレイでは、ひとつの事例を4人が順に「受け手」役をするので、メンバーの対応を聞き、自分の対応に活かすことができますが、本番では常に1番です。1番のドキドキ感が「かけ手」の第一声に注目するため、耳を澄ます大切さを教えてくれました。同期生との出会いも素晴らしかったです。これからも誰かの役に立てるよう進んで行きたいです。

「死にたい」と言う「掛け手」の言葉にひるまず、じっくりと落ち着いて聴きたいと思ひました。自殺志向の強さを判断する目安に喪失・絶望・孤独の三つの大きな要素があると学びました。ロールプレイでは例え解決の糸口が見えなくても聴いていくことが大切だと教わりました。自分にとつて課題も分かり、頭で考えたことが中々実践に応用できず悔しいですが、研鑽を進めて身につけたいと思ひます。

先輩相談員からのお話にホツとしたり、「はたして自分にもできるだろうか」と自分への振り返りにもなりました。ロールプレイは心身ともに張り詰め、終わる度にどつと疲れが襲ってきました。自殺志向のある「かけ手」への事例では聴いているだけで胸が締め付けられるような苦しい思いになり、それもある種の共感であり、苦しい「かけ手」の気持ちに寄り添い、それを正直に伝えることも大切なのだと体感しました。

ロールプレイは体力を消耗して辛かったのですが、「受け手」としての言葉かけ、判断する力が研修を通して成長した気がします。今私ができることは、「かけ手」の気持ちに真摯に向き合い「受け手」として、掛ける言葉を慎重に選ぶことだつたと思ひました。そして、日常私が接している方々にも私の声かけで、良い方向に変化したと気づいてもらえるように頑張りたいです。

## 受講生の余興



様々なかけ手に対するロールプレイをしました。「かけ手」の“声”を聴くこと。その周りに漂う気配を感じることに。孤独に陥っている人へは1人ではないことを伝える。自殺念慮を感じたら、生きて欲しいことをはっきり伝え、次にまたかけてくるよう約束をすること・・・などなど、初日は疲労困憊でした。それでも夜の懇親会ではいろいろな話を聞いたり、踊ったり笑ったりと和みとふれあいの中にほっとする癒やしがありました。

自分の気持ちを相手にわかってもらうことの難しさ、また、人の気持ちを汲み取ることの難しさを経験しました。考えに考えて口に出さずにいることが多く、「言葉に出して言ってみないと相手には分かりませんよ」とのアドバイスに勇気ももらいました。努力して、ゆっくりと相手の価値感に添って傾聴し、優しい声で、また、凜とした態度でいのちの電話の一員となれたら嬉しいと思ひます。

## 哀しみに寄り添い 支え合うということ



講師：一般社団法人 繋(つなく)

代表理事 宮崎 睦美 氏

プロフィール：看護師・米国 NLP マスタープラクティショナー  
(心理カウンセラー) / 一般社団法人日本グリーフケア協会認  
定特級グリーフケアアドバイザー

☆これまでに看取りケアを通して、1000人以上の患者様やご  
家族の心のケアを行う。現在は独立し、一般社団法人 繋 の代  
表理事として訪問グリーフケアを行っている。

日時：2018年2月18日(日)

場所：熊本県医師会館2Fホール

みなさん、こんにちは。

本日は熊本城マラソンという、華やかなイベントの中、これだけ多くの方々に、足をお運びくださったこと、そして、いのちの電話の関係者のみなさん、グリーフケアの普及活動をさせていただけること、心から感謝いたします。ありがとうございます。

では、今からみなさんに、いのちを守るためのグリーフケア、これからの社会にとっても大切なケアになると思います。それをお伝えしていきたいと思えます。まず、グリーフケアとは何かということをお伝えする前に、みなさんご自身の中の悲しみに触れてみてください。失った人や物事に思いを馳せて、わき起こる感情、情緒に心が占領されそうな自分、そしてその一方では、でもこの窮地をなんとか脱し、なんとか自分に戻ろうと、そういう両方に引っ張られる心の揺れ動き、その不安定な状態と同時に、様々な反応、違和感を経験していると思えます。その時の悲しい・苦しいという心の声の主、その主の正体こそがグリーフなのです。

特別なものではなく、みなさんにも「あ、ある」というものです。振り返ってもらった悲しみの原因、いろいろあると思えます。熊本でも震災がありました。そ

の震災で、職や住み慣れた家に、また思い出の品々、全て失った人もいます。そして大切な、愛する家族や友人、同僚を失った人もおられるでしょう。また、加齢による老いもそうです。様々な事が出来ていたことが、やれなくなるのも悲しみになります。またガンだけでなく脳血管障害や生活習慣病など色々な病気になることや、身体の一部を喪失し、更には立場や自信、信頼や名誉までもが失われることも悲しみの原因になります。そして、超高齢社会の日本は、これから多死社会に突入していきます。介護の問題からくる悲しみもあるでしょう。

みなさん、先ほど、悲しみを思い出してもらいましたが、辛かった時に起きていた反応があったと思えます。心理的には意味もなくイライラしたり、嫉妬したり、肉体的には寝ているのに体がだるいと感じたり、食欲不振や過食もあります。認知的には物忘れが増えたり、行動的には過活動や突然涙が溢れ出したりします。何故こんな思いまでして生きていないといけないのかなどの思いまで引き起こすのが悲しみの反応です。ただ泣くだけでないことがお分かりいただけたでしょうか。そして、この反応は、悲しみから癒えていくために内から発散している反応なのです。だから、悲しみを恐れなくていいのです。

では、深い悲しみから立ち直るまでの流れをお伝えしたいと思います。「悲嘆のプロセス」です。まず、生活が一変してしまうような出来事が起こったとき、ショック期です。この時期に人間はその失ったものを想い慕って、ときに想い起こすという情緒的な時期だと言われています。そして、喪失期。人と違ってしまったような気後れ感覚の時期だと言われます。怒り、後悔、罪の意識や、失った物事とか、亡くなった人がまだ居る、まだ存在していると、生きてるように振る舞ってしまう。次に、閉じこもり期。うつ的な不調といえます。とにかく孤独感です。もう失ったことを受けとめて行こう。受け止められる自分になってきた。そういう時期なので、亡くしたものの存在や亡くしたものの大切さを改めて体の中で感じます。そして、癒やし最盛期が訪れます。新しいアイデンティティの誕生です。ずっとこの流れ、これが順番に来るものだと思います。ぜひこの流れ、これが順番に来るものだと思います。人によって、一日のうちで、行ったり来たりする人もいます。飛び越すこともあります。一日一日、1年、2年と、ゆっくり、こういう過程をたどっていきます。これを逸脱しているから、異常だということは、全くないです。そこも一つのポイントとして



押さえておいてください。

悲しみがもたらす様々な反応、悲しみを癒すためには、何らかの方法で表出していきます。だからこそ、みなさんは適応して、今こうやって生きています。私は「人は人で癒やされる」ということを自分の経験から気付きました。そしてまた私は、この熊本の自然に癒されました。また、時に音楽であったり、季節の食べ物や旅行など、回復する癒しの方法がたくさんあったなと思います。

悲しみは誰一人として同じものが無いですね。つまり相手の悲しみを聞く、寄り添う時に大切なのは、自分の物差しを、その時、片付けてください。これ重要です。誰一人として同じ物語を歩んではいけないのです。あなたの物差しで目の前にいる人を見ないでください。

次に、その人が言ったあるがままの感情を受け止めてください。ほとんどの方々が、あるがままの感情を、事実を受け止めてほしいのです。そして感動する言葉は要りません。ここ、とっても大切です。あるがままのその人の心に、心の声に耳を傾けてください。

あと、話さなくても、人の話し声が聞こえるあたたかさ、話し始めることで雰囲気やわらぎます。ただ話さなくても、そこに居て、その空間で耳を傾けているということでも、心は癒えてきます。そういうことも心の癒やしのひとつだと知ってください。

そして、孤立させない、孤立しない。今みなさんそれぞれ悲しみがあるということに気づきました。他人事じゃないですね。孤立感、それは悲しみを癒えていくために発散するものですが、必ずあなたのそばで黙って見守ってくれる人がいます。支えてくれる人がいる、ひとりではないということを中心に留めていてください。

そして、あなたを必要としている人がいます。今ではなくても何年後に、あなたの辛い経験が人の命を助けることがあります。あなたがただ「うんうん」「そうなんだよね」「辛いね」と頭をただ傾けている、その行動が人の命を救うこと、あります。そしてただあなたがそこにいるだけでいいと思っている人、たくさんいます。

知らずに悲しみが入ってくる、耐えられなくなってくる、その前に、みなさん意識してケアをしましょう。日本人は、我慢強い民族です。我慢が美学みたいなところがありますが、人に頼るのもいいと思います。

悲しみって、大切な人や物の価値の喪失、そこに愛しさ、愛があります。だからこそ悲しさやむなしさとか生まれてきます。またその逆もあります。かなしみは【悲しみ】と【哀しみ】と【愛しみ】があります。心を引き裂かれる悲しみと、口を布で覆ってむせび泣くような哀しみがあります。しかしどんなかなしみであっても、人と人で癒やし合える。そ悲しみは消えないかもしれない。だけど、そのかなしみは【愛】で包まれ愛(かな)しみに変わると信じています。人は誰でも心の自然治癒力があるのだと信じてください。そして口には出さずに、心の中で『大丈夫!』と断言してあげてください。

生きているからこそ心は揺らぐ・・・それでいい。情があるから、愛情があるからこそ悲しみや後悔があります。後ろを振り向くと脇道が見え後悔が生まれますが、その時その時ベストだと思って歩んでいます。後悔は悪いことではありません。そこにどんな愛情があったかということにも一緒に気づいてください。

それから、生きている限りどんな状態になっても幸せを求めていいのです。そこにあるがままで得られる幸せ、求めていいのです。「どうせ、できない」ではなく、そこに求めようとしてください。悲しみのケアがあることで、少しでも早く自分の混乱とその整理ができます。そして失ったものごとや亡くなった方の生きた意味、そして今自分が生きている意味、人生の意義、いろいろなことに気付いていきます。その中から、これからの人生を捉え直すきっかけになるケア、それがグリーンケアです。

介護保険は生活、医療保険は体、では心は？医療や福祉に全部ゆだねられる問題ではありません。心はみなさんそれぞれにあって、それぞれの問題、自分自身のこととして考えて行きませんか。家族や地域や会社、友人、それぞれが持つコミュニティーで支え合う意識を自分からスタートしてみませんか。グリーンケアは、昔の日本では当たり前にある寄り添い、支え合いだと思っています。グリーンケアを通して新しいものを取り入れるのではなく、思い出そう、もう一回再生させよう、というので普及活動を頑張っていこうと思っています。

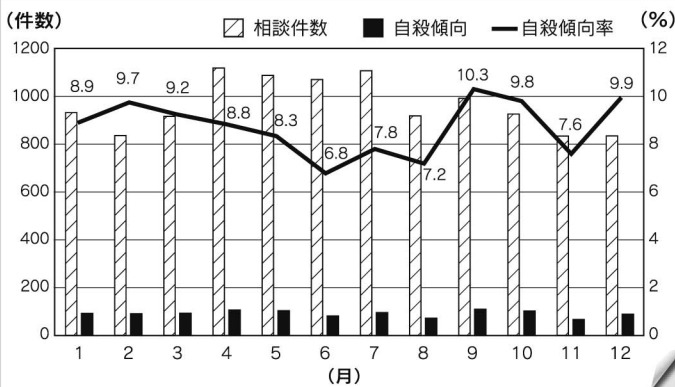
この時間、公開講演会となっていますが、精一杯みなさんのグリーンケアをさせて頂きました。生きて、いろんな人の支えになりましょう。そして甘えましょう。本当に今日はありがとうございました。



# 平成29年の

# 相談電話の分析

図1 月別受信件数



平成29年の月別相談件数は図1の通りです。年間11,581件、月平均965件、その内自殺を念慮、予告、実行中の件数は年間1,002件、月平均84件で、年間総数の8.7%になっています。

なお、相談電話を受けきれない件数は受信している件数の数倍あると思われます。多くの相談を受けるためには相談員数の増強が大きな課題です。

図2に相談内容分類毎の年代別の傾向を示しています。人生、夫婦の問題は年代と共に増加し、職業、男女の問題は年代と共に減少しています。精神、家族については年代の差はあまりないようです。年代によって相談内容の傾向が違ってくるのがわかります。

図2 相談内容の年代別の傾向

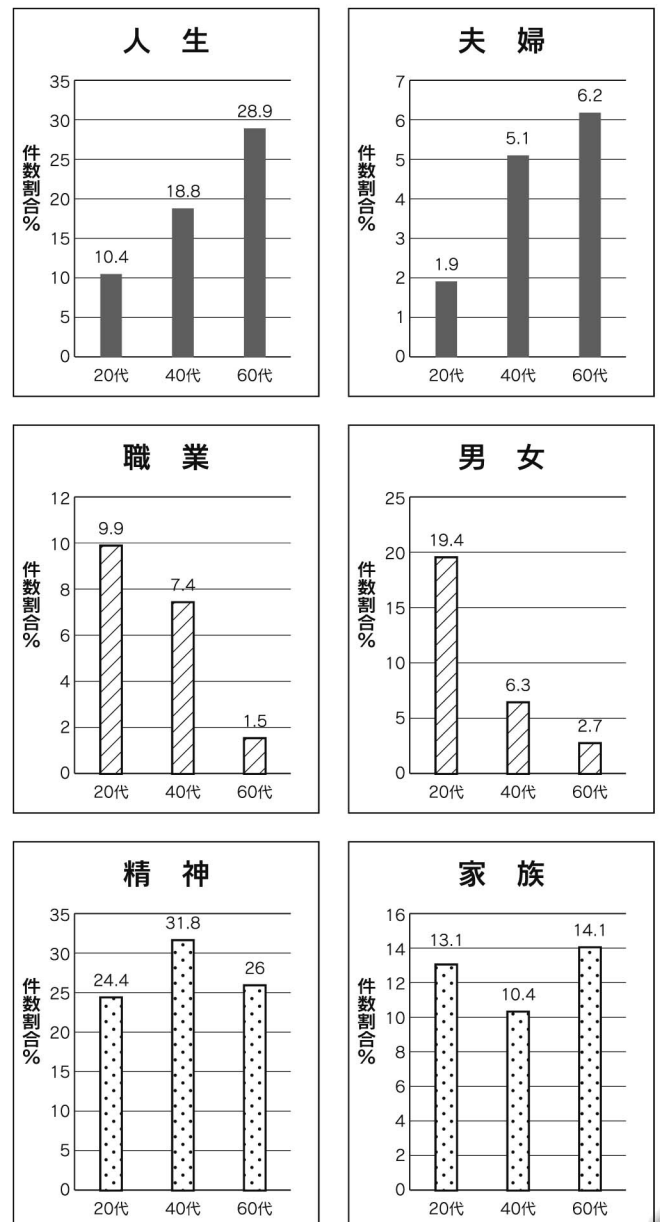


図3は熊本いのちの電話にかけてきた地域毎の件数の割合です。不明が約半分ありますが、発信地域がわかっている件数では市内県内発信と県外からの発信がほぼ同数となっています。

他のセンターも県外からの発信がこのような多いのか調べたいと思っています。

図4は相談件数のうち、自殺念慮、予告、実行中の発信地域別の件数の割合です。県外からの件数の割合が大きくなっています。

(発信地は、相談員の判断によるものです)

図3 発信地別相談件数割合

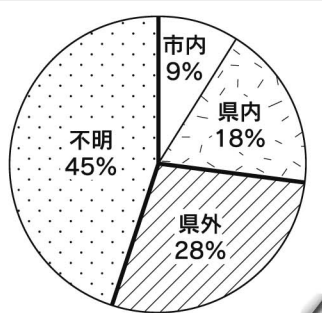
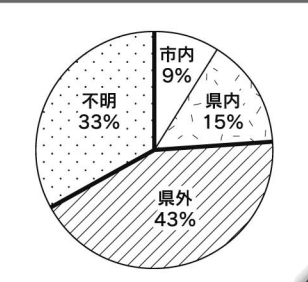


図4 発信地域別自殺傾向相談件数割合



# 感謝報告

# ご支援ありがとうございます。

熊本いのちの電話は多くの皆様に支えられています。  
感謝をもってご報告させていただきます。

## 寄付感謝報告

(平成29年12月9日～平成30年2月28日)

### 法人・団体の部

(敬称略・順不同)

YMCAチャリティゴルフ会 (医)愛育会 福田病院 歩み法律事務所 インマヌエル熊本キリスト教会 おむすび太郎	福田 稠 松村 尚美 高口 恵子	熊本YWCA (有)高翔 (株)シスニック 日本基督教団 熊本草葉町教会 日本基督教団 錦ヶ丘教会	高口 裕之 古澤 和行 川島 直道	(有)フットフィール 明正電設(株) 元田社会保険労務士事務所	花田 龍美
---	------------------------	---	-------------------------	---------------------------------------	-------

### 個人の部

(敬称略・順不同)

青木 悟 新 圭 粟津 安和子 池田 菖子	岩 浅 真 司 悦 永 道 子 大 平 啓 二	小 澤 德 子 片 岡 隆 治 片 平 起 句 高 杉 ノリ子	長 倉 瑛 子 長 田 幸 基 野 村 清 人 芳 賀 克 己	開 由 美 子 堀 浩 善 牧 睦 美 宮 崎 拓 郎	山 道 キヨノ 渡 辺 誠 二 匿名6名
--------------------------------	-------------------------------	--	--	--------------------------------------	----------------------------

※切手、お茶、コーヒー等もありがとうございました。感謝をもって、ご報告させていただきます。

肥後銀行、熊本銀行、熊本第一信用金庫のご厚意で、寄附金お振込みの際の振込手数料を免除いただいております。  
これにより、ご寄付の全額が熊本いのちの電話の活動を支える資金となります。(専用の振込用紙をご利用いただくと、この免除の対象となります。)  
各金融機関のご厚意に対しあらためて感謝申し上げます。

## 募金式自販機寄付

(平成30年2月末日現在)

### 募金式自動販売機設置にご協力いただいている方々

(敬称略・順不同)

(医)愛育会 福田病院 APパーク桜町 (一財)化学及血清療法研究所 清水工場 (一財)化学及血清療法研究所 合志工場 (一財)化学及血清療法研究所 菊池工場 (一財)化学及血清療法研究所 阿蘇支所 菊陽レディースクリニック 北熊本乗馬クラブ (株)九電工 九州電機工業(株)	九州ルーテル学院大学 (医)寿量会 熊本機能病院 熊本県医師会館 熊本市水の科学館 (医)孔子会 孔子の里 金剛(株) (株)SYSKEN (株)建吉組 桜木現場 (株)建吉組 建峰ビル (株)建吉組 廣徳寺現場	(株)建吉組 三井ハイテック現場 (株)建吉組 白鷺電気工業現場 (株)建吉組 松橋町竹崎 (株)建吉組 自動車会館現場 (株)建吉組 合志警察署現場 (医)寺尾会 寺尾病院 (医)聖孝会 中村整形外科 和みほいくえん 西日本電材(株) 松尾建設(株)	松尾建設(株) アイディエス現場 松尾建設(株) 金剛現場 松尾建設(株) 北熊本インター現場 ルーテル学院高等学校
---	---	---	---

サントリービバレッジサービス(株)、  
コカ・コーラボトラーズジャパン(株)  
の2社のご協力を頂き、自販機による  
ご寄付の仕組みを準備しております。  
各自販機設置者様のご支援と上  
記2社のご協力に感謝申し上げます。

## 書籍寄付

(平成29年6月15日～平成30年2月28日)

(敬称略・順不同)

### 書籍寄付にご協力いただいた方々

猪本耀子/小山善文/野中小夜子/開 由美子  
村田アスカ/匿名1名

## イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン

2017年12月20日、マックスバリュ田崎店でイオンギフトカードの贈呈を受けました。  
2016年度のキャンペーン(2016年4月～2017年2月)で熊本いのちの電話に寄せられた「黄色いレシート」総額は1,356,249円。その1%に相当する額を、ギフトカードとして贈呈いただきました。  
マックスバリュ田崎店様、そして「熊本いのちの電話」のボックスにレシートをご投函くださった皆様に深く感謝申し上げます。  
(引き続き、イオン熊本中央店とマックスバリュ田崎店でのキャンペーンに参加しております。)



### Facebookでも ご支援のお願いをしています

熊本いのちの電話への「一口募金」をお願い  
しています。また、私どものHPをご案内して活  
動についての情報発信をしています。

### 熊本電気鉄道株式会社様より、電話相談員養成講座の ポスター掲示へのご協力をいただきました。

熊本電鉄の車内と電鉄バスの車内にポスター(2種)を掲示して  
いただいております。車内ポスターをご覧になった方々からのお問合せ  
が、事務局に入って来ております。ご協力に心より感謝いたします。

# 2017年度 後期講座修了式



2月27日(火)、熊本中央YMCAに於いて「第34期電話相談員養成講座」の修了式が執り行われ、今年は8名の方が臨まれました。後期19回の講座は、カウンセリング及び心理臨床に関する小講義やロールプレイなど、一泊研修を含み総受講時間64時間にもなります。みなさんはたくさんの学びの中、一区切りを達成した晴れやかなお顔が印象的です。

修了式では、理事長福田桐より、「最近、さまざまな取り組みが少しずつながら実を結び、自殺数の全体としては減少傾向をたどっています。しかし、その一方で自殺する若者がなかなか減らない現状もあります。若者の自殺を防ごうと、様々な団体が取り組みを進め、政府も対策強化に乗り出しています。第34期は8名で少数ながら精鋭として、熊本のちの電話の活動力を支える一員となられるよう期待します」と挨拶した。

受講生代表のKさんは「学びを生かし、かけ手の心に寄り添うことができるよう頑張ります」と心強い決意表明を述べました。その後の茶話会では、スタッフがお祝いの歌声を披露。受講生には黄色いチューリップがプレゼントされました。

チャリティ公演の  
お知らせ

## 翔べ！ひごっ子 夏まつり

2018年8月19日(日) くまもと森都心プラザホール

開演：18：30(開場18：00)

監修：中村花誠

出演：熊本県太鼓連盟／熊本県吟剣詩舞道総連盟／花童 他

チケットのご予約をお受けいたします

お一人 2000円

パンフレットへの広告掲載のご協力もお願い致します。

5月開講

## 平成30年度 養成講座受講生募集

養成講座の  
ご案内

ボランティアです。  
あなたと一緒にしませんか。

かけ手の話に  
目を澄まして聴く  
活動です。

誰のために  
何かできると  
信じています。

かけ手の声に  
そっと寄り添い、  
生きる力になりたいです。

詳しくは、  
熊本のちの電話事務局に  
お尋ねください。



先日、喪失や悲嘆ということがテーマの勉強会に参加してきました。何でもない日々を過ごす中で、或いは予告されながら、予知できるできごとであっても、自分にとってとても大切なものや日常的なものを失うということのところが被る大きな衝撃に傷つき、病むことのこわさを知りました。ただ、人には“回復”するという機能が備わっており、その人のペースと回復のステップを行きつ戻りつしながら立ち直っていくものであることも教えていただきました。その回復には、人との関わり合いがとても大切であるということから、私たちの活動がそのような方々への心の寄り添いとして活動でき、また継続していくことはたいへん意義深いものだと思えます。電話相談活動を通して、様々な生きづらさや困難さを抱えておられる方々の隣人として活動して参ります。

### 事務局日誌

平成29年12月後半～30年3月

29年12月	20日	イオン黄色いレシートキャンペーン 贈呈式 (マックスバリュ田崎店)
30年 1月	17日	YMCAチャリティゴルフ会 寄付金贈呈式
	21日	熊本のちの電話新年会
	28日	自死遺族支援研修会(東京)
2月	10,11日	養成講座一泊研修
	18日	熊本のちの電話 自殺予防公開講演会
	27日	RKKテレビ「ウェルカム」出演
	27日	平成29年度養成講座修了式
3月	24日	研修委員・リーダー 合同研修会
	25日	相談員会 社会資源探訪(益城町山本仮説団地)
	28日	熊本のちの電話 理事会
	30,31,4/1	養成講座説明会(シアーズホーム夢ホール)

毎月10日 フリーダイヤル(10日08:00～11日08:00まで)  
毎月第1木曜日 定例研修委員会、第2金曜日 定例運営委員会



社会福祉法人 熊本のちの電話  
事務局

〒860-8691 熊本中央郵便局私書箱155号  
TEL096-354-4343

発行人：福田 桐 編集：広報委員会

熊本のちの電話

検索



赤い羽根共同募金配分金により作成したものです。